



第15話

固い議会質問

議会質問の中継をご覧になったことはありますか？

「難しい言葉ばかりで、とっつきにくい」と、議員になる前は思っていました。そして、いざ自分が議場で質問する立場になると、質問に対して知事や教育長から返ってくる答弁が「カチコチの宇宙語」に聞こえて、最初は何を言っているのかよく分からず苦労しました。しかし、だんだん

んそれにも慣れてきて、3年目からはだいたい議場でのやり取りもできるようになりました。

6月の議会質問の動画(YouTube)は、300回以上再生され、特にSSWの質問は熱い想いで臨んだ分、反響が大きく嬉しかったのですが、現場の声をしっかりと聴き、調査することの大切さを改めて知る機会にもなりました。

宇宙語や固い岩盤のような行政組織に負けず、これからも一歩いっぽ頑張ります。



毎回ドキドキですが、質問の言葉には沢山の思いと願いを込めています

濃厚なステイホーム

イラスト:森シホカ



おおつかあい・プロフィール
1974年1月10日生まれ。旭操小学校、操南中学校、岡山朝日高校、岡山大学教育学部卒業。99年より福島県で農業研修。4年間の大工修業の後、自宅を建て、大工として働く。2011年3月福島原発事故により一家で岡山に避難。5月「子ども未来・愛ネットワーク」を立ち上げ、避難移住者のサポートや福島の子どもの保護受け入れなどを行う。北区建部町に夫、3人の子どもと暮らす。2016年から県議会議員。

大塚愛 いっぽ通信

岡山県議会議員
大塚愛 県政レポート[第15号]
発行:2020年7月(2020年6月議会報告)
最新情報を発信しています
Facebook:
・みどり岡山
www.facebook.com/greenokayama
・大塚愛
www.facebook.com/ohtsuka.ai.3
●みどり岡山ホームページ:
http://midori-okayama.org

[事務所]
〒700-0971
岡山市北区野田5-8-11
Tel:086-244-7721
Fax:086-244-7724
e-mail:info@midori-okayama.org
http://midori-okayama.org/
[自宅]
〒709-3122
岡山市北区建部町吉田321
携帯:070-5056-3808
e-mail:ai.raku@shokan.jp



みなさま、こんにちは。
夏になっても新型コロナウイルス感染が続き、何かと心配のある日々ですが、いかがお過ごしでしょうか。

7月には西日本豪雨から2年を迎えましたが、時を同じくして今年も豪雨があり、九州などで大きな災害が起こりました。

線状降水帯が発生して、度重なる大雨が降り、河川の氾濫や土砂災害が起こりまし



九州へ届けるタオルが沢山寄せられ、皆で仕分け作業をしました@災害支援ネットワークおかやま

たが、この度はコロナが重なったため、県外からのボランティア支援や避難所運営に影響が出ています。

西日本豪雨の際には、のべ10万人を超えるボランティアさんが県内の被災地で活動し、大きな力となっていました。しかし、このコロナ禍での災害支援は、避難所やボランティアセンターで感染防止のルールを作ったり、県内のボランティアだけで復旧

作業をする大変さがあり、岡山でもこのような複合災害に備えていかなければと思います。



花言葉:愛情、結束

いっぽ通信

P.02-03 子どもの課題解決をはかるSSW

P.01 新型コロナに重なる自然災害や気候変動への対策は
P.02-03 おもな活動記録から「コロナ休校中の食生活アンケート」
P.04 愛ちゃんがゆく! ― 県議体験記 ― / 日々のうごき(2020年4月〜7月)



市民の皆さんと共に学ぶ「みんなの自治講座〜もっと知りたいコロナのはなし」。コロナは医療体制だけでなく、差別をしない心も大切です。

また、最近では「観測史上初」、「100年に一度」と報道されるような災害が、毎年日本のどこかで発生していて、気候変動という地球規模の影響が身近に感じられるようになっていきます。

気候変動がこれ以上進まないようにするには、省エネや脱炭素(石炭や石油の使用を減らす)を進めたり、再生可能

エネルギーを増やしていくことが大切です。岡山県内で出される二酸化炭素は2013年をピークに少しずつ減らすことが出来ていますが、これからコロナ禍による経済打撃を回復していく中でも、環境の視点や経済の地域内循環を大事にしながら、この災禍を乗り越えていければと思います。

6月議会の一般質問から
(2020年6月25日)

SSW事業の問題点を質し、改善に向かう一歩に



議会質問
(みどり岡山YouTubeチャンネル)

SSW(スクールソーシャルワーカー)について

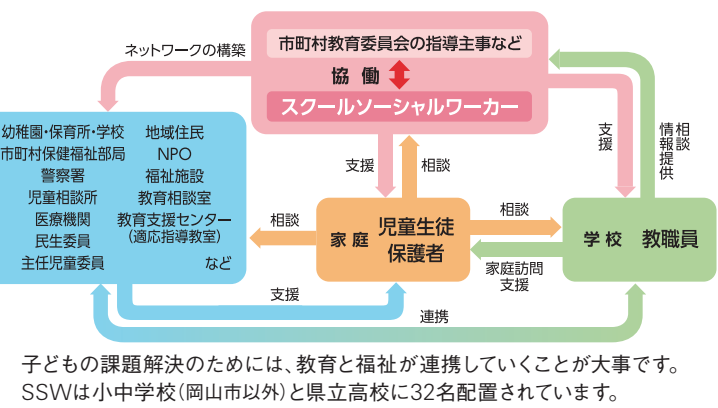
いじめや虐待、不登校など、困難を抱える子ども達に、福祉的なアプローチで支援をするSSWは、子どもや教員から話を聞き、関連機関と連携しながら課題解決のための支援を行っています。この制度がうまく機能していないという声を聞いたことを機に、様々な方から数十時間にわたって現場のお話を聞き、調査し、その課題について質問しました。

Q. 2年前にすべての学校を巡回訪問する方針が変わってから、教員がSSWに相談しやすい環境はできたが、子どもと直接話すことや個別支援を県教委が止めるようになっていていると聞く。ケース数をこなす前提ではなく、子どもの課題解決を基準にした行動判断をしてほしいが。

A[教育長]. ケースバイケースで対応しているが、「個別支援は短期集中で」という目安

を示しているのは事実。巡回型にしてから学校からの要望が大きく増加している。早めに解決が見込めるケースは早めに福祉に繋ぎ、本来関わるべきところで、しっかり関わっていく必要がある。

Q. 報告書類が増え、深夜や休日に及んでいる。隣県と比べても岡山県は提出書類が100倍も多いので、見直すべきではないか。



子どもの課題解決のためには、教育と福祉が連携していくことが大事です。SSWは小中学校(岡山市以外)と県立高校に32名配置されています。

しづらいという苦情が出ている。実態はどうなっているのか。

A[教育長].

担当が1年ごとに変わった学校は56.7%、2年以上は43.3%(2018～2020年度)。複数年にわたる勤務が望ましいので、継続した配置に努めたい。

Q. SSWは貴重な専門職だが、この数年多くの人が辞めており、その背景には事業の課題があると聞く。また、積極的に意見を出すSSWが勤務日を半減され退職に追い込まれたり、降格させられることも多数起っている。退職者の多い現状をどのように改善させていくのか。

A[教育長]. 2018年度は35名中9名、2019年度は34名中10名が退職(更新なし)。今後は、退職者の理由を確認し、事業の趣旨を丁寧に説明して、理解と協力を得られるように努力したい。

Q. 1年ごとに異動させられ、学校からも連携



に増えている(2015～2019年度)。SSWのニーズがますます増えている中で、倉敷市等ではマンモス校を含む20校以上を一人で担当しており、とても十分な体制ではない。SSWの配置を拡充すべきではないか。また、増え続ける子どもの課題にどう取り組むのか。

A[教育長]. 配置人数の拡充は現時点では難しい。効率化と役割分担も意識しながら、教員とSSW、関連機関の職員が協力して、子ども達にとって一番良い形で対応できるようにしたい。

A[知事]. 子ども家庭総合支援拠点が各市町村に設置できるよう促し、この拠点を核として、学校や民間団体としっかり連携できる体制を作れるよう進めている。

Q. 「教員は多忙で、学力向上が優先されると、丁寧に子どもに向き合う余裕はなくなる」という現場の声もある。学力テスト重視ではなく、子どもや家庭の支援を丁寧にすることが、たとえ遠回りであっても、それが本来の教育再生ではないか。

A[知事]. SSWや学校警察連絡室など増やしてきたところだが、子ども達の将来がかかっている学校が、いい形で機能するよう工夫や努力をしていきたい。

第三次生き活きプランについて

Q. 知事は教育再生と産業振興に力を入れてきたが、教育にはより福祉を、産業にはより環境を充実させていくことが重要だ。産業政策については、省エネ・新エネ技術のイノベーション促進や、経済と環境を両立させる「デカップリング*」の視点を加えてはどうか。

A[知事]. 環境と経済の両立を図っていけるよう、次期プランの施策や指標を検討していきたい。

*デカップリング……経済成長や便利さは維持しつつも、エネルギー消費を減らしていく、即ち両者を切り離すという考え方です。

人口減少対策について

Q. 人口減少という右肩下がりの変化に対して、漠然とした不安が社会に存在していると感じる。AI(人工知能)などを活用した技術革新には期待も感じるが、今後、ゆるやかに人口減少する社会を安心できる形にしていくためには、その問題に正

面から向き合い、建設的な議論を行っていくことが大切だ。人口減少から生ずる課題を整理・検討するための目標を次期プランに掲げてはどうか。

A[知事]. 高齢者人口がピークを迎える2040年頃を見据えて、課題を整理し、今後4年間で達成する目標を設定しようと考えている。市町村や関係団体など幅広く県民の意見を伺い、プラン策定を進めていきたい。

Q. これからの時代は新しい変化に対応できる若い世代のビジョンやアイデアを積極的に取り入れるべきだが、20～40代の県職員と民間とが協働して議論を行ってはどうか。

A[知事]. 岡山の持続可能性について、次世代を担う若い世代の民間の方々と県職員が議論を交わすことは有意義だと考え、方法を研究したい。



人口が減りお店がなくなったため、地域の力で営業を始めた「新山ほほえみ笑店」@吉備中央町。

コロナ休校中の食生活アンケート調査

@建部町ESD食品ロスを考える会
(4月～7月)

休校になった3～5月には、子ども達の生活リズムが崩れたり、食事の準備が大変だったという声が聞かれました。そこで、家庭の食生活はどうだったのかを振り返り、第二波が来た時に少しでも役立つ対処法を見つけて、共有できればと、建部町内の小中学校の保護者対象にアンケート調査を行い、126世帯から回答をい

ただきました。

回答では、買い物や献立が大変だったという声が多かったですが、手作り料理や子どものお手伝いの機会が増えたという前向きな変化も多く、コロナ禍で大変な時期ではありましたが、各家庭で様々な工夫をしながら過ごされていた様子や、お婆あちゃんとの触れ合いや畑で採れる野菜など、中山間地ならではの良さも感じられました。

今後に備えて必要と思うものは、「家にある物で食事作りをする能力」や「無駄を作

おもな「活動記録」から

らない食品ストック方法」が最も多く、コロナを機に食生活を見直した方も多かったのではないのでしょうか。



報告書は、地域の保護者や先生にも好評でした

調査結果については、建部町公民館HPまたは「たけべ新聞」でご覧いただけます。

種苗法改正反対&安全な学校給食を

@たねをまる会おかやま
(6月13日、7月2日)

先の国会では、種苗法改正案が見送られることになりました。これはブドウやイチゴなど海外に流出している品種の権限を守るためとされていますが、実際

には法改正に海外流出を止められる効力はなく、逆に、イチゴ、サトウキビ、米など、国内の農家が永年行ってきた自家増殖を許諾制にして制限する法として、問題が指摘されています。また、これは昨年廃止された種子法と同じく、海外の巨大多国籍企業



種子法と種苗法のことかわかるリーフレット。「日本の種子を守る会」で検索

の進出を促す動きであり、安全性が十分に確認されていない「ゲノム編集食品」(遺伝子操作した食品なのに表示の義務がなく、昨年輸入が許可された)の流通が進むことなども心配されます。

このような食をとりまく問題は、子ども達の健康にとっても影響が大きいと考え、学校給食の安全性を求める要望活動や、種子や有機農業について勉強会をしようという活動をしています。関心のある方は、どうぞご連絡ください。(たねをまる会おかやま taneokayama@gmail.com)